

# 殺ダニ剤の登録一覧表

(2014年用)

JA全農山形 生産資材部

2013年12月16日 作成

薬剤名	ホルドー液・混用	希釈倍数															特 性 お よ び 注 意 事 項	
		りんご	おうとう	も も	ぶどう	な し	きゅうり	トマト	な す	すいか	いちご	メロン	かき	菊 (花き)	食用 ぎく	ば ら		
ダニサラバフロアブル	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	1,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハダニの全ての生育ステージに対して効果を示し、特に幼虫から若虫に対して効果が高い。</li> <li>天敵その他有用動物に対して影響が少ない。</li> <li>ホルドー液との混用は避け、近接散布は前後14日以上あける。</li> <li>アリエッティC水和剤、カルシウム剤と混用する場合、ダニサラバフロアブルを先に溶かす。</li> <li>スターマイトフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためダニサラバフロアブルは使用しない。</li> <li>小粒核果類、花き類・観葉植物で登録あり。</li> </ul>	
スターマイトフロアブル	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハダニの全生育ステージ(卵～成虫まで)に対して効果が高い。</li> <li>ダニサラバフロアブルを使用した場合、抵抗性出現防止のためスターマイトフロアブルは使用しない。</li> <li>ホルドー液との混用および14日以内の近接散布は効果が劣るので避ける。</li> <li>有袋栽培の洋なしに使用する場合は、果実の葉斑が目立つおそれがあるので、袋かけ前の散布はしない。</li> <li>ペフラン液剤、アリエッティC水和剤と混用する場合、スターマイトフロアブルを先に溶かす。</li> <li>有用昆虫(ミツバチ、マルハナバチ、マメコバチ)およびカブリダニ等の天敵に対する影響が少ない。</li> <li>小粒核果類、食用ほおずきで登録あり。</li> </ul>
ダニゲッターフロアブル	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハダニ類の全ステージに効果があるが、特に卵・幼虫に対する効果が高く、残効性が長い。</li> <li>遅効的だが、成虫には不妊作用を示す。</li> <li>ホルドー液との同時散布および前後14日以内の近接散布は効果が劣る恐れがあるので避ける。</li> <li>新梢伸長期の日本なし(二十世紀を除く)に使用する場合は、以下の事項に注意する。</li> <li>(1) 豊水、新高、長十郎には新葉に葉害を生じる恐れがあるので使用しない。</li> <li>(2) 有機リン剤との同時散布および10日以内の近接散布は新葉に葉害を生じる恐れがあるので避ける。</li> <li>おうとうに使用する場合は、新梢伸長期に葉害を生じることがあるので、葉の硬化を持って使用する。</li> <li>キャベツ、はくさい、こまつな、ねぎ、ばらに対して葉害を生ずる恐れがあるので、付近にある場合かからないように注意すること。</li> <li>開花期の水稲に本剤がかかった場合、不稔などの葉害を生じる場合があるのでかからないように注意する。</li> <li>小粒核果類で登録あり。</li> </ul>
ハロックフロアブル	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	—	2,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>成虫に対する活性はないが、卵・幼虫・若虫の各ステージに活性が高く長い残効がある。</li> <li>ホルドー液散布14日前まで使用し、ホルドー液散布後は使用しない。</li> <li>すもも、花き類・観葉植物にも登録あり。</li> </ul>	
マイトコーネフロアブル	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミツバチ・蚤およびカブリダニ等の天敵に対する影響が少ない。</li> <li>ホルドー液との混用は避け、近接散布は前後14日以上あける。</li> <li>小粒核果類、ミニトマト、食用ほおずきにも登録あり。</li> </ul>	
コロマイト水和剤	○	2,000	—	—	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>蚤に長期毒性があるので、桑葉にかからないように注意すること。</li> <li>乳剤は、葉害防止のため安全性が確認された薬剤のみ混用する。</li> <li>乳剤は、汎用性農着剤以外および葉面散布肥料とは混用しない。</li> <li>乳剤はトマト・ミニトマトのコナジラミ類、トマトサビダニ、ハモグリバエ類で登録あり。</li> <li>乳剤はミニトマト、食用ほおずきにも登録あり。</li> </ul>	
コロマイト乳剤		1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	1,500	1,500	1,000	(観株床) 1,000	1,000	—	1,500	—	—		
コテツフロアブル	×	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	—	2,000	2,000	2,000	2,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>蚤毒性があるので、桑園周辺では飛散しないように注意する。</li> <li>ハクサイ・ダイコン・きゅうり・なすの幼苗期は葉害の恐れがあるので使用不可。</li> <li>オクラではオオタバコガで登録あり。</li> <li>スイカではミナミキイロアザミウマで登録あり。</li> <li>花き類・観葉植物(きく、ストックを除く)、ミニトマト、小粒核果類にも登録あり。</li> </ul>	
サンマイト水和剤	○	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	—	—	—	—	—	1,000	—	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺激が強い)</li> <li>ダニトロン・ピラニカは交叉抵抗を示すので連用は避ける。</li> <li>フロアブル剤は、トマト、ミニトマト、食用ほおずきのコナジラミ類に登録あり。</li> <li>他に水和剤はすもも、キウイフルーツに、フロアブル剤はえだまめに登録あり。</li> </ul>	
サンマイトフロアブル		—	—	—	—	—	1,000	1,500	—	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000		—
ダニトロンフロアブル	○	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	—	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	<ul style="list-style-type: none"> <li>原液を皮膚や目に直接付着しないようにする。(刺激が強い)</li> <li>サンマイト・ピラニカは交叉抵抗を示すので連用は避ける。</li> <li>ほうれんそう、キウイフルーツにも登録あり。</li> </ul>	
カネマイトフロアブル	×	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	1,000	1,000	—	1,000	1,000	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>アリエッティCと混用する場合は、カネマイトを先に希釈し混用する。</li> <li>ホルドー液との混用は避け、近接散布は前後14日以上あける。</li> <li>うめ、すもも、うり類(漬物用)にも登録あり。</li> </ul>	

※1: ( ) 内に表示されている記載については、各県ならびに本会農業研究室の試験結果を参考に評価した内容となっています。

※本資料作成以降に農業の適用内容が変更になる場合もあるため、ご使用される際にはラベルの登録内容を再度ご確認ください。なお、記載している希釈倍数については、登録濃度の高い希釈倍数のみを記載しています。

※各薬剤共、ホルドー液と混用して使用すると効果が低下したり、残効期間が短くなるようので留意願います。

※殺ダニ剤は抵抗性回避のため各薬剤共、年1回に厳守願います。